

## 第 73 回舞踊学会大会

### 学会に参加される皆様へ

2021 年度第 73 回舞踊学会大会を下記の要領で開催致します。

1. 日時 : 2021 年 12 月 4 日 (土) 9 : 00 ~ 16 : 50 オンライン大会 (zoom)
2. 内容 : 一般研究発表・基調講演・シンポジウム
3. 参加費 : 一般会員・学生 無料  
一般非会員は 1000 円 (2021 年学会大会特別措置)

**\*ただし、12 月 4 日 (土) 9 時までに、事前申し込みが必要となりますので、ご注意ください。詳細は、「参加申し込み方法」をご覧ください。**

### 【プログラム】

受付開始 : 8:30 (オンライン受付)

■大会開会挨拶・事務局連絡 9:00-9:10

■一般研究発表 第一分科会 (9:10~11:55)

(時間・発表者・発表題目・座長 ; 発表 15 分、質疑 10 分)

時間	発表者	発表題目	座長
9 : 10 ~ 9 : 35	藤田明史 (相愛大学 特別研究員)	採点競技としてのブレイキンに関する一考察	譲原 晶子 (千葉商科大学)
9 : 35 ~ 10 : 00	○橋本有子 (お茶の水女子大学) 山田美穂 (お茶の水女子大学)	Laban/Bartenieff Movement Studies/System (LBMS) に基づく教授法を用いた授業実践 : ソマティック・ムーヴメント・エデュケーションの授業を題材にして	
10 : 00 ~ 10 : 25	演題なし		
10 : 25 ~ 10 : 40	休憩 (15 分間)		
10 : 40 ~ 11 : 05	高野美和子 (日本女子体育大学)	1960 年代 ~ 70 年代の前衛的な舞踊と江口隆哉 - 体育大学教師の視点から -	福本 まあや (お茶の水女子大学)
11 : 05 ~ 11 : 30	中西みなみ (早稲田大学スポーツ科学研究センター) 岡田悠佑 (明治学院大学)	学校教育におけるダンス・アウトリーチ活動に関する研究 : コーディネーターの役割に注目して	
11 : 30 ~ 11 : 55	柴田隆子 (専修大学)	仮想空間における声のダンス	

■一般研究発表 第二分科会 (9:10~11:55)

(時間・発表者・発表題目・座長; 発表15分、質疑10分)

時間	発表者	発表題目	座長
9:10~9:35	中村 まい (お茶の水女子大学大学院)	群舞における参加者に対する寛容さ—阿波踊り・三原やっさ踊りに参加する企業チームの比較を通して—	藤井 慎太郎 (早稲田大学)
9:35~10:00	武藤大祐 (群馬県立女子大学)	地域社会における舞踊文化の多様性とその可視化—「放課後ダイバーシティ・ダンス」の試みと考察	
10:00~10:25	宮悠介 (筑波大学大学院)	音楽著作権が舞踊作品の創作過程に与える影響—振付家と制作者を対象にしたインタビューをもとに—	
10:25~10:40	休憩 (15分間)		
10:40~11:05	高橋 京子 (フェリス学院大学)	幼児の運動体験の一つとしてのカラリパヤット研究	波照間 永子 (明治大学)
14:50~15:15	富 燦霞 (明治大学)	『黄帝内経』にみる中国伝統の身体観	
11:30~11:55	弓削田 綾乃 (和洋女子大学)	民族舞踊の教材活用の可能性を探る—家政学を基盤とした家庭科分野に焦点をあてて	

■一般研究発表 第三分科会 (9:10~11:55)

(時間・発表者・発表題目・座長; 発表15分、質疑10分)

時間	発表者	発表題目	座長
9:10~9:35	鈴木純 (東北文教大学短期大学区部)	ダンスにおける汎用的な力に着目した教材開発に向けた基礎調査—他競技を専門とするダンス受講生からみた ダンスの可能性—	八木 ありさ (日本女子体育大学)
9:35~10:00	村瀬瑠美 (千葉敬愛短期大学)	幼児のオノマトペによる身体表現における「何かになる表現」—自分なりの表現と定型的な表現に着目して—	
10:00~10:25	齋藤瀬奈 (筑波大学大学院)	ダンス未経験者における題材のイメージの捉え方に関する研究—知覚から表現までの反応実験による検討—	
10:25~10:40	休憩 (15分間)		
10:40~11:05	杉山りん (お茶の水女子大学)	自己表現と身体的コミュニケーションに注目した中学校ダンス授業の検討	寺山 由美 (筑波大学)
11:05~11:30	○高橋 系子 (竹早教育保育士養成所) 大貫 秀明 (駿河台大学)	保育者の専門性を証すスキルの所在—幼児の動きを「翻訳」できるからだ—	
11:30~11:55	○豊福 彬文 (宮崎大学国際連携センター) 児玉孝文 (同大学産学・地域連携センター) 野邊 壮平 (同大学産学・地域連携センター)	子供のゲーム依存症の防止に資するダンス教材「ゲームごっこ」の実践研究	

■一般研究発表 第四分科会（9：10～11：55）

（時間・発表者・発表題目・座長；発表15分、質疑10分）

時間	発表者	発表題目	座長
9：10～9：35	○大浦 朱生 （東海大学大学院） 田巻以津香 （東海大学） 松本秀夫 （東海大学）	クラシックバレエダンサーのボディイメージとWell-beingの関係	森 立子 （日本女子体育大学）
9：35～10：00	町田 樹 （国学院大学）	アーティスティックスポーツに関する舞踊学的探究の可能性—1970年代ジョン・カリーを媒介とする舞踊界とフィギュアスケート界の協働創作の意味	
10：00～10：25	演題なし		
10：25～10：40	休憩（15分間）		
10：40～11：05	宮下寛司 （慶應義塾大学）	状況概念における身体	松澤 慶信 （日本女子体育大学）
11：05～11：30	中村美奈子 （お茶の水女子大学）	比較舞踊研究の基盤としてのデジタルアーカイブ構築の試み	
11：30～11：55	柿沼 美穂 （国立環境研究所）	運動形成の5位相と知覚の関係—Movementを「見ること」と「すること」	

■全体休憩①（11：55～12：10）

■2019年度研究奨励賞 受賞特別講演（12：10～12：55）

「変容的抽象とラディカルな感情移入 - ルドルフ・フォン・ラバンに対する病跡学的アプローチ」

齋藤尚大（横浜カメラアホスピタル）

■全体休憩②（12：55～13：30）

■基調講演（13：30～15：00）

「身体の共鳴と共感能力の進化」

山極壽一（総合地球環境学研究所 所長）

言葉を持たないゴリラを長年研究していると、コミュニケーションの根幹は身体の共鳴であることがわかる。サルは食物や場所をめぐるトラブルを防ぐのに、優劣関係に基づく優先権をルール化しているが、ゴリラは対面交渉による同調を誘うことで対立を解消する。これにはサルより高い共感能力が必要であり、人間はそれをさら

に高めて規模が大きく複雑な社会を作ること成功した。脳容量の増大は集団規模の拡大に対応したという社会脳仮説がある。しかし、脳が大きくなり始めたのは 200 万年前で、現代人並みの脳になったのは 40 万年前だから、7 万年前に登場した言葉は関与していない。集団規模の拡大は、おそらく舞踊や音楽による身体の共鳴によって共感能力が高められた結果ではないかと思う。そういった身体によるコミュニケーションは、現代の人間社会でも集団規模に応じて重要な働きをしている。現代人の脳の大きさに対応する 150 人という数は、信頼できる仲間の数、すなわち社会関係資本に匹敵すると考えられる。新型コロナウイルスによる感染症で、3 密を避けてオンラインのコミュニケーションが常態化する中、身体による音楽的コミュニケーションの重要性を再認識することがコロナ後の社会の構築に不可欠だと思う。

### ■全体休憩③ (15 : 00~15 : 15)

### ■シンポジウム (15 : 15~16 : 45)

「地域社会・教育現場におけるダンス・演劇のいま、そしてこれから」

コーディネーター：貫成人（専修大学）

パネリスト：阪本洋三（近畿大学）

谷竜一（京都芸術センター）

黒須育海（ブッシュマン主宰）

新型コロナウイルスの世界的なパンデミックから 1 年以上経過した今、私たちを取り巻く状況は大きく変化してきた。特に、文化芸術であるダンスや演劇は、その状況に沿ったものとして変化せざるを得なくなった。こうした変化は、教育や社会において、市民や地域をつなぐ公的施設やアーティスト、そして現場の指導者が、どのような現実と直面し形を変えながら人々と共にダンスや演劇を生み出してきたのだろうか。失い、あるいは創造し、そこから何を見出し、次に続くポストコロナとしての身体観やコミュニケーションのあり方の変化を見据えながら、今後どのような方向性へとつなげる必要があるのかについて討議する。

### ■大会閉会挨拶 (16 : 45~16 : 50)

第 73 回舞舞踊学会大会実行委員

名誉実行委員長 遠藤保子

実行委員長：塚本 順子

実行委員：大橋奈希左、阪田真己子、酒向治子、原田純子、朴京真

E-mail: buyougakkai2021@gmail.com